

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームわかまつ園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県薩摩川内市高江町1655
記入者名 (管理者)	折田 喜美子
記入日	平成 20 年 7 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	その人らしくを第一の理念とし、「地域との関わりの中で、その人らしい人生の継続支援を行なう」という理念を作り掲げている。		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	毎朝の申し送り時、基本理念等を唱和し皆で共有化を図り、日々のケアに取り組んでいる。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	ご家族へは、入居時や面会時、地域へは自治会に入り総会等に参加し、ホーム便りを配布し理念の浸透に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	散歩や併設のデイサービス利用者と一緒に移動車での買い物などで近隣の方達と挨拶を交わしたり、話したりしており、又、近隣の方が季節の野菜や果物を持参したり、煮物を持参して立ち寄ってくださる。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	地域からの呼びかけがあり、地域の催し物(祭り、運動会、コンサート、文化祭等)に積極的に参加し地域の方々のご協力を得ている。又、保育園児のお遊戯会への誘いもあり、子供達との交流も継続している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市が行なう介護支援センターの介護予防教室等で地域住民を対象に、認知症の理解や接し方について話をしている。又、運営推進会議の際、要望があり地域の方に話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行い、振り返りやサービスの向上の必要性を自覚し、自己評価や外部評価の結果については、ミーティングで話し合い、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況、活動状況、職員の研修状況の報告等を行う。活動状況に応じて、地域への講演依頼等もある。地域の催物の紹介や参加依頼がある。又、非常災害時の協力依頼も毎回お願いしている。外部評価の結果も情報として公表し、意見等も聞いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行なう介護保険サービス提供事業者連絡会において各事業者が抱える問題や課題等を話し合う機会を提供してもらい、そこで助言不可の事項は後日文章により返答をもらいサービスの質の向上に役立てている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修会に参加し、レポートや園内勉強会で全職員が学ぶ機会を設けている。又、入居者の中に地域福祉権利擁護事業を利用されてる方がおり、担当の職員との話し合いも行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、日々の生活の中での言葉や言動による虐待はないか、職員がそれぞれ注意し、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用者の状態変化による契約解除に至る場合の説明を行い、承諾を得ており、退去の際再度説明し、理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の家族代表の方や面会者の方に、利用者の不満、意見、苦情がないか尋ねたり、面会簿の横にアンケート用紙を置き、無記名で自由に書いてもらい、それを運営に反映出来る様にしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の日頃の様子を写した写真をホールに展示し、来訪時見ていただき、入居者の状態や日々の暮らしぶりを直接話している。遠方の家族には毎月の利用料請求時健康状態等や日々の暮らしぶりを封書や園便りで知らせる。金銭管理は金銭台帳のコピーや領収書にて報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の来訪時直接要望を伺うようにしている。又、アンケート用紙を設置し、苦情、意見、不満等を書いて貰うようにしている。重要事項説明書に、行政、その他外部機関の苦情受付窓口を明示している。出された意見や要望はミーティング等で話し合い対応している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回事業所全体の運営会議に管理者が参加し、職員の要望等を提案し、その結果をミーティングで報告している。又、ミーティング時お互い意見を出し合い質の向上に繋げている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は状況に応じた対応ができるよう通常のシフトに入れてない為、日勤帯や夜間、利用者の状態の変化に応じ、柔軟な体制が取れるようにしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族への信頼関係を築くために馴染みの職員の対応が重要と考えており、異動や離職がやむを得ない場合は、利用者やご家族によく説明し、ダメージの軽減すべく離職や異動後時々ホームを訪ねてもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月15日のミーティング時定期的に勉強会を実施している。事業所以外での研修に多くの職員が受講できるように時間帯を工夫している。研修報告書を提出してもらい回覧している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症を考える研修会や県のGH協議会と別に地区のGH協議会の設立に伴い、研修の場や他の施設の職員と交流する機会を作り、ネットワーク作りやサービスの質を向上させていけるように取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人開催の年4回のお疲れ様会にて、職員の気分転換や交流を図っている。休憩室にてゆっくりできる時間を確保している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が時々来訪し、ねぎらいの言葉や、要望等を聞いている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学をしてもらったり、事前面談で生活状態を把握するように努め、ホームでの生活に不安がないように話し合いを行っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で、ご家族の状況や思いを受け止めるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーと連携しながら、必要なサービスに繋がっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人やご家族にホームを見学してもらい、他の利用者との触れ合いやコミュニケーションを図り、安心して納得した上でサービスが開始できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の心にあるものを自由に話してもらい、傾聴し受容、共感し又、職員も相談に乗ってもらったりして、共に支えあう関係を築いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子や職員の思いを細かく伝えることで、ご家族や職員の思いが少しずつ重なり、ご本人を支えていく関係作りが多くなっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、ご本人の思いや状況を見極め、外出や外泊などをお願いしているが、快く受け入れられている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人、友人宅に遊びに行ったり、来訪してもらったりと継続的な交流ができる様働きかけている。命日のお寺参りや墓参りなど支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士、気の合う同士で過ごせるように、ホールにソファを置いている。又、お互いの居室に行き来している。毎食時やお茶時間ご利用者と職員が同じテーブルで行い、多くのコミュニケーションが取れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他の施設に移られても、お見舞いや面会に行き、相談に乗ったりしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者に声をかけじっくりと話を聞き思いや意向の把握に努めている。ご本人からの聞き取りが難しい場合は、ご家族からの情報を得て対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者自身の語りやご家族、知人等の訪問時などで、少しずつ把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを、職員全員が把握しそれにより対応している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、きずいた事やご本人やご家族の思いや要望、意見を聞き、職員全員で意見交換を行い介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングを含め介護計画の期間内に応じた見直しを行なっている。入居者の状態変化や状況により見直しを行い介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、ケアの実践・結果・バイタルや心身の状況、気づき、言動など記録し、職員間の情報共有に努めている。又、介護計画に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状態に応じたかかりつけ医の受診支援や、適切な医療処置を受けながらホームでの生活が維持出来るように、ご家族とも連絡を取りながら支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員や自治会長に来訪してもらい、配布物を持参してもらっている。又、地区の交番や消防署にも協力を依頼している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の行きつけの美容院や訪問理美容サービスを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されており情報交換が出来るようになっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望されるかかりつけ医による医療を受けられるように必要に応じ、支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じ認知症の専門医と相談、受診を行なう関係が出来ており往診も継続されている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員を配置しており、入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を介護職員と共に行っている。又、隣接しているデイ・サービスの看護師や協力病院の看護師との看護師と連絡を取りあっている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにし病院関係者や家族とも情報交換を行い、回復状況により速やかな退院支援に結び付けている。。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ご家族、ご本人に入居時長期医療が必要な状態になった場合、退居となる旨の契約を交わしており、状態変化に応じ、主治医やご家族との話し合いを行い、方針を共有している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホームでの終末ケアは行っていないが、ご本人や、ご家族の意向に添い主治医と連携を取り安心して納得した最後が迎えられるようにしている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームでのケアの支援状況等の情報交換や話し合いを行っている。馴染みの職員が機会を作り訪問している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	居室へ入室する際の声掛けの徹底を始め日々の生活の中で入居者の尊厳や羞恥心に配慮したケアを行っている。個人情報秘守義務の徹底を図っている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一人ひとりに合わせた声掛けを行い、希望等を聞き本人の意思を尊重している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	基本的な1日の流れはあるが、ご本人の体調や気持ちを尊重したケアをおこなっている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	個々の生活習慣に合わせ、日常的に化粧やおしゃれを楽しんでもらうよう取り組んでいる。又、ご本人の馴染みの美容室や訪問美容師により、希望に合わせた毛染めやカットをされている。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	食事の下こしらえ、味付け、配膳後片付けなど、個々の力に応じてして貰っている。入居者と職員が同じテーブルで語り合いながら一緒に食事している。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	移動販売車を利用して嗜好品を購入されている。又知り合いの店に電話注文(スタッフに依頼)して配達してもらったり、スタッフと一緒に買いに行かれている。食べ過ぎる事がないように声掛け、見守りの支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄時間や習慣を把握し、一人ひとりに合わせた、トイレ誘導や介助を行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>職員の都合で入浴を強制することなく、入居者それぞれの希望に合わせ支援している。入浴を拒む入居者に対しても無理強いすることなく、タイミングを変えたり、対応する職員を変えたり工夫している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整え安眠できるように支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活歴から、得意分野を一人ひとり発揮してもらい、利用者同士楽しみを共有して貰っている。感謝の言葉や賞賛の言葉を伝えるようにしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の協力を得て、少額のお金を持ってもらい、金額を職員に知らせてもらっている。ご家族より小遣い銭として、事業所が管理している方でも、外出時や必要時自分で支払われるようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気やご本人の気分、希望に応じて、季節を肌で感じて貰えるように、日常的に散歩や買い物、ドライブに出かけている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご本人の希望により、お寺での命日供養や墓参りなど行っている。ご家族と一緒にも行かれている。又、友達の家への訪問など支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が自力で掛けられる方は、自室で子機を使用し気兼ねなく利用して貰っている。掛けられない方には、希望により支援しご家族との繋がりを持ってもらっている。ご家族より毎日葉書きが届き、楽しみにされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂けるように、明るい挨拶と、湯茶でもてなし、ゆっくりと寛いで頂だけるような雰囲気作りが心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる身体拘束は行っていないが、日々のケアに於いて身体拘束となるような言動は行っていないか常に振り返っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は掛けず見守りを中心とした支援を行っている。ご利用者自身が居室から出られる際、自分で鍵を掛けられる方がいる。(他の利用者が入られ、部屋の物を触られるのを嫌がられる為)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で、記録物を行い、全員の動き、状況を把握するように努めている。夜間は時間ごとの巡視や、居室を見渡せる廊下のソファや畳の間で休むなど24時間ご利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ポットなど利用できる方には、自由に使ってもらっている。ご本人の嗜好品(漬物)を切る包丁なども、職員の側で自由に使ってもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、予測される危険を、日々のケアの中で未然に防ぐようにし、常時見守りの必要な入居者は居所確認表により事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットを記録し職員の共通認識を図り、緊急時の知識や対応を学ぶようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法を消防署や関連病院の看護師長にて行われたものをマニュアル化し、園内研修の中で全職員が対応出来るようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力体制は、自治会の総会や運営推進会議で協力をお願いしている。又、地元一般協力者自衛消防組織を作り地域の協力を得て、災害対策に取り組んでいる。年2回職員と入居者として夜間の火災を想定し消火・避難訓練を行っている。。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン作成時やご家族の来訪時、リスクに対し、自由を束縛することなく、事業所での工夫や取り組み、方針を理解していただけるように話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い記録し、食欲・顔色・動き等に变化があるときは医療受診に繋げており、状態によりご家族に連絡を行う。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤訳防止の為、分包し個々の容器に入れ、服薬準備時職員2名で確認し、ご本人に手渡し、又は介助し服用の確認をおこなう。個人のファイルに処方箋を整理し、職員が用法や容量について理解するようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い毎朝のバナナ入り牛乳や、繊維の多い食材を献立に入れている。散歩や室内リハビリ、レクで身体を動かす機会を自然排便出来る様に取り組んでいるが、それでも便秘が続く時はDrの指示にて便薬を使用する。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアはご利用者の力量に応じて、声掛けや介助を行っている。就寝前は義歯を洗浄液に浸ける様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食後記録し、1日のカロリーを把握している。水分の摂取量も毎食時、おやつ時の量を個別にホワイトボードに記載し集計した量を個別に日誌に記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、全職員で学習し予防対策に努めている。ご本人やご家族の同意を得て、インフルエンザの予防接種を受けている。職員も受けている。外部からの訪問者に対し、風邪症状の方の訪問を遠慮してもらっている。玄関に速乾性すり込み式手指消毒剤を準備している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は用途別に準備し、常に漂白し清潔に努めている。布巾は使用していない。冷蔵庫の点検、掃除を行い食材の残りは鮮度確認の上、冷凍したり、処分している。冷蔵庫や冷凍庫の食材の点検を頻繁に行い、必要以上に買い込まない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるよう、玄関横の花壇に季節の草木、花木を植えたり、プランターを置いて、季節感を出している。ご家族が自宅から花などを持ち寄ってくださったりする。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾りつけ等、季節によってご利用者と一緒に作成している。ホールの一部に置部屋を設け、堀コタツや古い水屋などを置き、ソファや畳の間でゆっくり寛いでもらえるように工夫している。デッキスペースからは周囲の山々や田園風景を見ることが出来、季節を肌で感じてもらえる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや収納庫付きの長椅子を置き、一人で過ごしたり、気の合った方同士語り合ったりされるスペースを作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子以外にも、自宅から冷蔵庫・テレビ等の電化製品や、位牌など自由に持ち込んでもらっている。家でされた様に、毎朝水をあげたり、お経を唱えたりされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に温度計を掛け、一人ひとりに応じた室温管理を行っている。毎朝窓の開閉を行い、空気の入替えや換気扇やホールの天井扇を使用し換気を行なっている。換気扇や天井扇は定期的に掃除している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせて、手摺、浴室、トイレ、廊下など安全に生活してもらえるように、居住環境を見直している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレの場所の理解が出来ない方へは、居室入口にご本人の写真と名前を貼り、居室内のトイレのアコーディオンカーテンを外しトイレが認識できるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	南側のベランダで外の空気を吸い、日向ぼっこしたり、居室の窓から季節の移り変りによる田圃の様子を眺めたりと、楽しまれている。花好きな方は居室や居室に付いたベランダに鉢物を置かれ、水やりをしたりと楽しまれている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしく、自尊心を尊重され安心して生活して頂けるように、家族や地域と協同した支援に取り組んでいる。